

ToO観測について

吉田道利

岡山観測所におけるToO観測

- 観測所長に直接申請
- 所長判断で実行

GRBのような緊急かつ短期間の現象
しか想定していなかった

今年に申請されたToO

1. 食連星(ϵ Aur)の食前後のスペクトル変化の長期(数か月)モニター
2. Be星のアウトバーストの中長期(1~2か月)モニター

特徴:

- モニター期間が長い
- 一回の観測はそれほど多くの時間を必要としない
 - 1. →数分 2. →30分~1時間

これまでのToOスキームでは対応しにくい

- 複数の共同利用観測に影響が出る
- 共同利用の補填が必要
 - 突発的短期的ToOでは補填は考えていなかった
- しかし、これまでなかなか実行できなかった種類の観測なのでプロモートしたい
 - 長期間(半定期的)継続→岡山観測所の新たな利用方法としてユニークな成果を生む可能性

どう対応したか

1. 非常に短い観測時間→共同利用観測者に個別にネゴシエーションしてもらう。共同利用時間の補填はなし。
2. 少し長めの観測時間→観測所時間を優先的に割り当てる。不足する分は共同利用観測者にネゴシエーションしてもらう。共同利用時間の補填は、観測者間で行ってもらう。

今後のToO対応

- 案1 従来通りの個別対応とする
 - 補填するかしないかは状況次第
- 案2 共同利用で、ToO観測受付をする
 - ずばる共同利用を参考に。ただし、長期モニターの観測も受け付ける
 - 補填時間もあらかじめ確保
- 案3 特に時間指定をしない「所長預かり時間」を設けて、ToO観測はそこへの申請とする。
 - 申請は随時
 - スケジュールには明には出ない。申請があったときに、あらかじめ設定した上限時間までフレキシブルに割り当てる。
 - 補填時間は確保しない